

町議会だより

しらたか

2019年10月15日発行
(令和元年度)

Vol.144

山形県白鷹町議会

9月定例会



「しらたかヨイヨイ、しらたかヨイ！」

町下地区盆踊り花火大会 18頁に関連記事

決算審査は87質疑・230分 30年度決算審査 …… ④ p

魅力のある町営スキー場へ …… ② p

ここが聞きたい 一般質問・議員が町政を問う …… ⑫ p

シリーズ企画 知れば得する“ぎかい”のキホン… ⑮ p

追跡レポート あの質問のゆくえ 新規就農者支援編 …… ⑲ p

シリーズ「ボランティア」 白鷹の未来を彩る… ⑳ p

この広報は、議員の自主編集で発行しています。

お手持ちのパソコンやスマホ等で
議会中継をご覧ください。
録画でもご覧いただけます。



営スキー場へ

9月
定例会

条例改正

ペアリフト料金が減額

11頁に関連記事



多くの利用客に期待

定例会は9月3日から12日までの10日間で開催され、平成30年度決算、令和元年度補正予算6件、人事等案件4件、条例改正等8件、町道認定・廃止1件、工事請負契約の一部変更2件について審議し、原案のとおり可決しました。一般質問は4議員が行い、町政全般について問いました。

◆料金見直しの考え方

町営スキー場の利用者は、減少傾向にある。利用者からは、ペアリフト料金が十円単位のため、現金の扱いが煩雑との声がある。また、回数券は、券の出し入れや、券を切る手間などがかかる。

条例改正

利用拡大とサービス向上をはかるため、料金を見直す。

- ・料金を百円単位とする（1回券以外）。
- ・回数券をなくし、4時間券とする。

	区 分		ペアリフト料金		
			見直し後	見直し前	
個 人	1 回 券		150円	150円	
	4 時間券 (新 設)	大 人	1,500円	回数券 (11回)	1,540円
		小 人	1,000円		1,020円
	1 日 券	大 人	2,200円	2,260円	
		小 人	1,500円	1,540円	
	ナイター券	大 人	1,200円	1,230円	
		小 人	800円	820円	
	シーズン券	小学生以下	10,000円	10,280円	
		中学生	13,000円	13,370円	
大 人		20,000円	20,570円		
団 体	学校授業 4 時間以内		1人につき 300円	1人につき 300円	
	スポ少活動 4 時間以内		1人につき 400円	1人につき 410円	
	30人以上の 団体 1日券	大 人	1人につき 1,600円	1人につき 1,640円	
		小 人	1人につき 1,100円	1人につき 1,130円	

※小人は、小学生以下のもの。

魅力のある町

補正予算

圧雪車更新へ

10頁に関連記事



25年間おつかれさまでした

修繕費の推移

年 度	修 繕 費
平成30年度	3,250,860円
平成29年度	3,433,490円
平成28年度	2,601,104円
平成27年度	3,000,000円
平成26年度	4,211,045円



スキー場の年間を通した
有効活用を

◆経過

現在の圧雪車は、平成6年に購入した。近年、老朽化により、毎年300万円ほどの修繕費用がかかっている。

昨シーズンの3月には、オイル漏れ等が頻繁に発生するようになった。調査の結果、修理に1850万円ほどかかることが判明した。

そのため、新たな圧雪車を購入する。

◆補正予算

今定例会において、圧雪車購入費として4400万円の補正予算を可決した。

◆今後のスケジュール

車種を選定し、入札を行い、今シーズンのスキー場オープンに間に合うよう更新する。

87質疑・230分

どのような成果が…

6 頁より関連記事

各会計決算の議決状況

会 計 項 目			歳入（収入）	歳出（支出）	議決 状況
一 般 会 計			97億8849万円	89億8816万円	全 員 賛 成 に よ り 認 定
特 別 会 計	十 王 財 産 区		556万円	300万円	
	下 水 道		6億5142万円	6億2426万円	
	国民健康保険		15億2558万円	15億1445万円	
	農業集落排水		1億4796万円	1億4186万円	
	介 護 保 険		16億6445万円	15億9725万円	
	後期高齢者医療		1億5020万円	1億4839万円	
事 業 会 計	水 道	収益的	3億935万円	2億7402万円	
		資本的	1500万円	1億3918万円	
	病 院	収益的	10億9531万円	11億3076万円	
		資本的	4413万円	1億4039万円	
	訪問看護 ステーション	収益的	2731万円	3371万円	
		資本的	0円	0円	
合 計			154億2476万円	147億3543万円	

（万円未満は端数を調整）

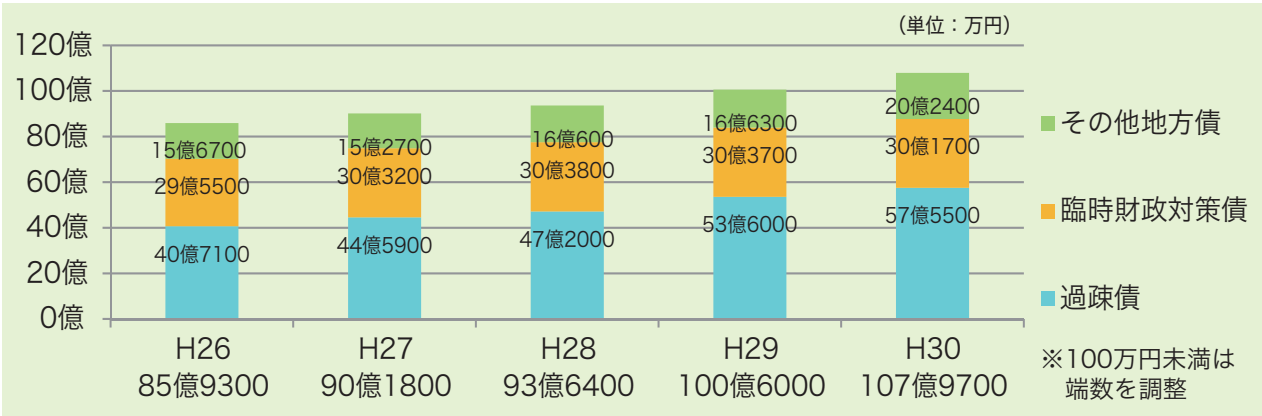
※「収益的」は事業に係る収入と支出。「資本的」は施設・設備に係る収入と支出。

9月 は 決 算 を 審 査

議会で可決した予算が適正に執行されたかを審査するとともに、その行政効果や経済効果を精査し、住民に代わって評価します。審査の結果は、後年度の予算編成や行政執行に生かされます。

地方債（借金）の状況は

●地方債とは、町が会計年度を超えて行う借入れのことです。



■その他地方債とは
災害復旧や教育福祉施設整備等のための借り入れ。

■臨時財政対策債とは
国の財源不足を補うための地方の借り入れ。
返済額すべてが普通交付税として入る。

■過疎債とは
過疎地域にあたる市町村限定で、発行が認められる借り入れ。
償還額の7割が普通交付税として入るが、3割は町負担。

平成30年度決算

決算審査は



たぐり寄せたい町民のしあわせ

荒砥高校体育祭より

平成30年度に行った主な事業（万円未満は端数を調整）

・まちづくり複合施設整備事業	15億3388万円	・除雪委託料	1億1332万円
・日本の紅(あか)をつくる町推進拠点施設整備事業	6079万円	・橋梁安全対策事業	5140万円
・企業立地促進事業	3000万円	・小中学校冷房設備整備事業	1億4254万円
・すまいる住まい！若者定住サポート事業	2330万円	・東陽の里整備事業	6066万円

わが町の 財政力

区分・年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	説 明
財 政 力 指 数	0.288	0.283	0.277	高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い。
経 営 収 支 比 率	89.2	89.4	87.4	低いほど独自の政策のために使えるお金が多い。
実質公債費比率	8.2	7.5	7.6	収入に対する負債返済の割合。

賛成討論

町民第一の姿勢を

笹原俊一 議員

自主財源比率が低い財政状況である。今後も有利な財源を確保し、厳しい財政を支えていく必要がある。

施策においては、子育てや教育環境の整備、定住に向けた住宅施策などについて評価する。完成した日本の紅をつくる町推進拠点施設については、紅花振興と地域活性化に活用されるよう、また、地域づくり推進交付金は、地域の課題解決に向け継続実施されるよう望む。

庁舎の新築については、職員一丸となり遂行されたことに敬意と感謝を表す。

10月からの消費税率引き上げは、町の経済にも大きく影響することが懸念され、混乱のない対応が求められる。

今後も町民第一の姿勢を忘れず、質の高い行政サービスに取り組まれることをお願いし、賛成討論とする。

監査意見書

町民福祉の向上に期待

平成30年度の財政状況は、実質収支が6億円を超え、経常収支比率は前年度から0.2ポイント改善し89.2%となったが、硬直化した状況は続いている。財政力指数は0.288と低いが0.305ポイント改善した。

町税は町民税などの増加で0.3%増加し、全体の収納率も上昇した。

主な事業では、子育て支援、教育・福祉関連施設整備移住・定住対策、地区コミュニティ推進事業、まちづくり複合施設整備事業など、町政の重要課題において積極的な事業が展開されたことを評価する。

ためまぬ行財政改革を推進し、計画的・効率的な行財政運営に努めるとともに、より効果的な事業を展開し、町民の福祉とサービス向上に寄与されることを期待する。

代表監査委員 竹田謙一
監査委員 丸川雅春

決算特別委員会

質疑

歳入 (町の収入)

地方交付税の今後は

〔菅原委員〕 地方交付税は減少傾向である。今後には及ぼす影響は。

〔総務課長〕 今後、人口減少が進むと、交付税も縮小されるものと思われ、一般的には財政規模を縮小せざるを得ないと考えている。行

革等の成果に対する加算が受けられるよう、取り組む必要がある。国の地方財政措置等も注視していかねばならない。

都市計画税の用途は

〔関委員〕 都市計画税は、下水道等の整備が目的とされているが、下水道は、すでに高い割合で普及している。どう捉えているか。

〔副町長〕 都市計画税は、昭和53年に、下水道整備の目的税として導入した。下水道が普

及している中、都市計画税を下水道に充当する税目とすることは、課題と捉えている。今後の土地利用、まちづくりの視点を踏まえ、先送りすることなく、一定の考え方を出す必要がある。

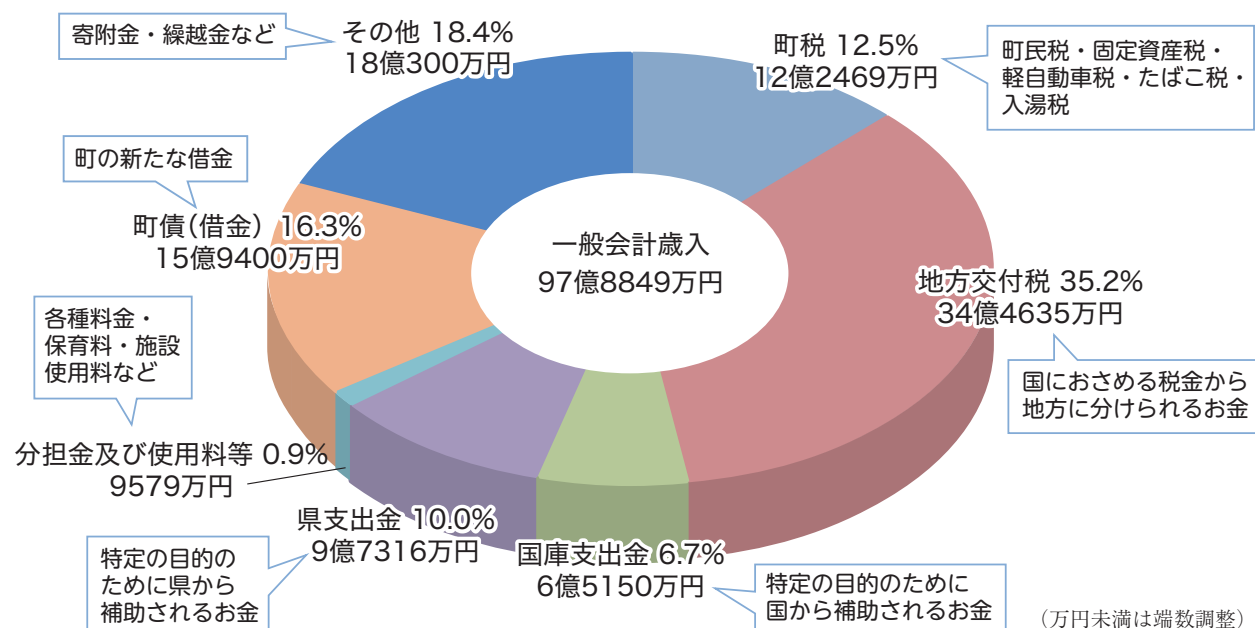
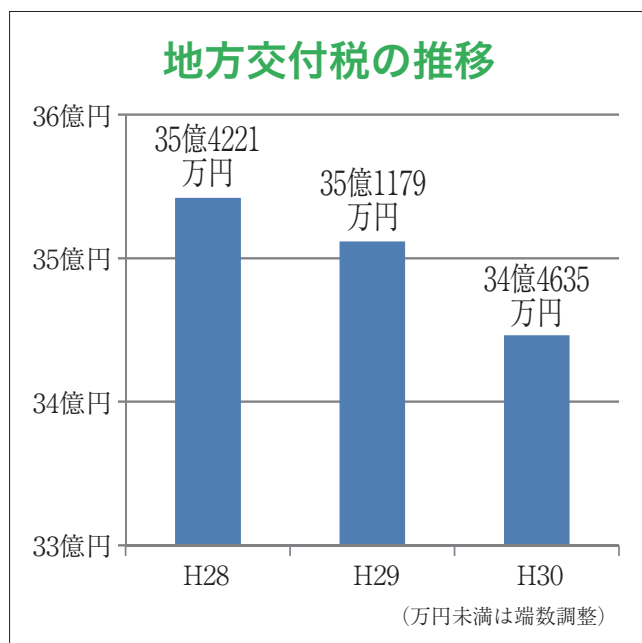
ふるさと納税が減少

〔関委員〕 ふるさと納税は、平成29年度と比較

し半分に減っている。要因は。

〔商工観光課長〕 寄附金額は半分以下に、寄附件数は3分の1ほどに減っている。総務省の通達により、30%までの返礼品となったため、寄附者にとって金額的な魅力が少なくなったことが主な要因のひとつと考えられる。

地方交付税の推移



歳出 (町の支出)

質疑

総務費

職員研修費減の要因は

〔奥山委員〕 職員研修開催事業の決算額が、平成29年度の約半分である。要因は。

〔総務課長〕 29年度は、情報セキュリティ関係の研修を外部講師により行ったが、30年度は自前で行ったため、講師代の支出がなかった。

迅速・正確な情報提供を

〔金田委員〕 町民への情報提供として、町報が月1回となったが、経費状況は。

〔企画政策課長〕 町報の印刷費は402万円ほど。お知らせ版があった時と比較すると、ページ数は増えたが、印刷費は16万円ほど減少している。

〔金田委員〕 月1回発行のメリット、デメリットは。

〔企画政策課長〕 配付文書が多く、町内長等に負担があるため、月1回になった。町報は、情報の鮮度が少し落ちるデメリットがある。

民生費

※成年後見制度

〔竹田委員〕 成年後見制度利用支援事業の執行

状況は。

〔健康福祉課長〕 町長申立の事案があり、診断書作成料を負担した。

〔竹田委員〕 今後必要性が高まり、相談も増えるのでは。見通しは。

〔健康福祉課長〕 日常生活相談は増えており、成年後見まで考える方もいる。専門的な部分は、社会福祉士や弁護士と相談しながら対応。今後は、置賜定住自立圏の中で成年後見センターの立ち上げも協議しており、町も十分な支援体制をとっていくべきと思う。

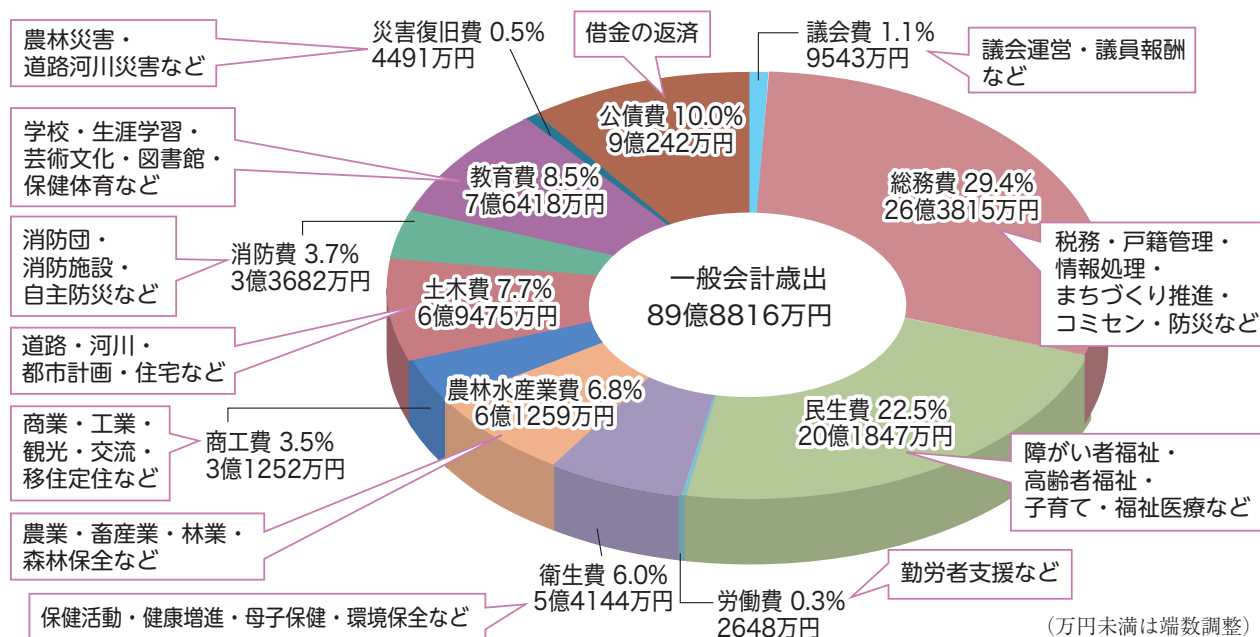
※成年後見制度とは、判断能力の不十分な方々を保護し、支援する制度。

〔健康福祉課長〕 1組、28万円の支出。国の補助制度がベースで所得要件があるが、その要件をクリアできないため利用が進まないのではないかと県へ話をしている。

目標を達成したが

〔笹原委員〕 婚活サポート補助金の実績は。

〔健康福祉課長〕 お見合い30件、成婚が2件で目標を達成したが、30年度の新規事業は低調だった。



歳出 (町の支出)

質疑



衛生費

命をつなぐ大事な事業の継承を

〔金田委員〕 献血事業の内容は。

〔健康福祉課長〕 荒砥高校や社会奉仕団体の協力により、確保に努めている。平成30年度は322人に協力いただいた。謝礼は、生活消耗品である。

〔金田委員〕 献血は大事。今後、どのようにして計画を達成していくか。

農林水産業費

〔健康福祉課長〕 採血目標は、年間400人。大切さを周知し、企業にも理解いただき、できるだけ確保したい。

蚕桑地区で集積進む

〔小口委員〕 地域集積協力金の実績は。

〔農林課長〕 一定割合以上の農地を機構に貸し付けた地域に交付される協力金であり、蚕桑の全地区に合計約1083万円を交付した。蚕桑地区では、複数の方が集まって法人を作り、その法人に集積を進めたことが影響していると捉えている。

地産地消に向けて

〔横山委員〕 福祉施設への地産地消補助はどのように実施したか。

〔農林課長〕 保育園や福

商工費

町産材利用の促進は

〔小口委員〕 町産材等木造建築推進事業費補助金を利用した新築、増改築の件数は。また、この事業により、町産材の使用は進んだか。

〔商工観光課長〕 実績件数は、新築が7件、増改築は4件だった。補助総額約488万円のうち、町産材使用分は約207万円であり、一定程度、町産材の使用があつた。

サテライトオフィス開鎖

〔小口委員〕 サテライトオフィスが平成30年度で終了した。成果は。

〔商工観光課長〕 17年間設置し、訪問企業数は4092社、マッチング数は768件であつた。製造業等の受注拡大が主であつたが、商業、観光、移住定住等に至るまで、幅広い首都圏での情報窓口となった。

快適な観光環境へ

〔菅原委員〕 観光公衆施設整備支援事業補助金の実績は。

〔商工観光課長〕 観光客が過ごしやすいよう、公衆トイレを整備する事業。八乙女種まきザクラと、紅花まつり会場の十王八掛分館及び萩野南分館の3カ所の

土木費

トイレを整備した。

賃貸住宅建築支援

〔奥山委員〕 すまいる新生活賃貸住宅供給サポート事業補助金の実績は。家賃はいくらか。

〔建設水道課長〕 民間の賃貸住宅建築への補助であるが、2件の申請があり、合計20部屋分の賃貸住宅が完成した。家賃は、6万1千円から6万7千円である。

消防費

高齢世帯の設置が

〔菅原委員〕 火災報知器設置支援の対象数と実績は。

〔総務課長〕 対象の347世帯中、189世帯に209個を設置した。〔菅原委員〕 実績が低い理由と今後の対策は。

教育費

中高生の国際交流

〔横山委員〕平成30年度もオーストラリアを短期海外留学先とした理由は。

〔教育次長〕英語圏で時差が少なく、親日家が多く治安も良いためである。

〔横山委員〕白鷹町は、東京オリンピック中国ソフトボールチームのホストタウン。両方の事業から中国との交流を深めることも可能だったのではないか。

〔町長〕先般、ティーボールによる子どもた

〔総務課長〕申請用紙を対象世帯に発送した。既に設置している方や住んでいない方が96人、回答のなかった人が89人いた。設置は義務であり今後も周知に努める。

ちの交流を行い今後についても話はしているが、まだ具体的ではない。いずれは中国語圏との効果ある交流を考えている。

魅力ある白鷹町のために

〔金田委員〕白鷹学講座の事業内容と実績は。

〔教育次長〕食育関係講座1回、モチベーション講座1回、トークショー付き映画3回で、延べ600人が参加した。



魅力ある白鷹学講座に

特別会計

国保特別会計

医療費の改善に向け

〔奥山委員〕がん検診の受診率が下がっている。早期発見により、

〔金田委員〕今後は、どのように考えているか。

〔教育次長〕ここ数年、企画委員の確保が困難な状況であるが、幅広い年齢層に参加いただける魅力あるプログラム、周知、工夫が必要である。

国保の保険料が低くなることも考えられるが。

〔副町長〕白鷹町の特定検診の受診率は50%を超えているが、より高めることで、医療費や国保会計の改善につながる。健康福祉課や町立病院と連携しながら、全体的な医療体制として考える必要がある。

交付額が増加

〔奥山委員〕保険者努力支援制度による交付額が平成29年度より増えている。今後の対応は。

〔町民課長〕30年度の交付額は約647万円で、29年度と比較し、325万円の増であった。30年度は、地域包括ケア推進の取り組みにより加点された。今後は、各指標で満遍なく加点を得ていけるよう、健康福祉課等と連携し取り組んでいく。

介護保険特別会計

サロン事業の活用

〔竹田委員〕ふれあいいきサロンの活動状況等は

〔健康福祉課長〕ふれあいサロン事業は32地区、延べ6277人が参加した。元気クラブサロンは新規3団体（地区）、既存1団体（地区）に支援している。健康づくりサロンは延べ306人が活用した。

〔竹田委員〕今後の活動の見通しは。

〔健康福祉課長〕高齢化が進み、いかに健康で生活できるかが大事。身近な地域での支え合いが必要。公的サービスで補いきれない部分もあり、サロン事業は重要である。活動が増えるよう働きかけていく。



笑顔が元気のはじまり

営者も高齢化。特に男性の参加を、どううまく呼びかけていくかが大切。大いにバックアップしていきたい。

男性限定予防教室

〔笹原委員〕男性限定介護予防教室の実績は。

〔健康福祉課長〕登録者17人、年14回開催し、延べ146人が参加した。今後も伸ばせるよう努力していく。

好調 若者定住支援

質 疑

委員 すまいる住まい！若者定住サポート事業の今後の見込みは。

当局 新築に補助する事業だが、予算額1510万円に対し、すでに1280万円の申請がある。交付決定された件数は17件で、

質 疑

町外からの移住も

そのうち町外からの移住は2件である。今後の需要見込みに対し、6件分を追加計上するもの。

イノシシ被害対策へ

委員 有害鳥獣の捕獲用わなの種類と数は。

当局 クマ用の箱わな4基、イノシシ用のくくりわな20基ほどを購入する。

台湾から誘客を

委員 国際交流協会補助金の内容は。

当局 台湾からの誘客に向け、現地の旅行業者と交渉を重ねている。台湾を訪問し、旅行業者3社へのプロモーションを行うことに対し支援する。



若者から選ばれる町へ

一般会計補正の主なもの

すまいる住まい！若者定住サポート事業 490万円
実績見込み等に基づく追加計上。

有害鳥獣対策事業費 105万円
イノシシやクマの捕獲用わなの購入支援。

幼児教育無償化実施円滑化事業 223万円
幼児教育無償化実施のための例規整備やガイドブック作成等。

川戸・金剛地区ため池等整備事業 630万円
県事業負担金の追加計上。

町産材等木造建築推進事業 500万円
実績見込み等に基づく追加計上。

プレミアム付商品券事業 5500万円
取り扱い商店等の換金にかかる経費の対応。

町道維持補修費 1570万円
路面補修等の維持補修工事の追加計上。
【予定箇所】^{ながおもて}荒砥長表線・^{あんかいだん}十二堂安海壇線上町八幡線

スキー場圧雪車整備事業 4400万円
圧雪車を新たに購入する。 **3頁に関連記事**

国際交流協会補助金 22万円
台湾訪問に対する支援。

など

※財源は国・県支出金、繰越金などで対応

令和元年度補正予算総括表

会計項目	補正額	補正後の額
一般会計	2億9825万円	90億8186万円
特別会計		
下水道	△4万円	6億1629万円
農業集落排水	520万円	1億7618万円
介護保険	6237万円	18億2053万円
事業会計		
水道		
収益的支出	44万円	3億818万円
資本的支出	1056万円	4億2157万円
病院		
資本的支出	△1220万円	2億3431万円

※万円未満は端数調整

条例

- 白鷹町成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の設定

地方公務員法の改正により、成年被後見人等であることが職員の欠格・失職事由から除かれたため、関係条例を整備するもの。

- 白鷹町消防団条例の一部改正

成年被後見人等であることを消防団員の欠格事由から除くもの。

- 白鷹町災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正

災害援護資金の償還金の支払猶予等の要件が緩和されたことへの対応。

- 白鷹町印鑑条例の一部改正

旧氏による印鑑登録が可能となったことへの対応。

- 白鷹町上水道給水条例等の一部改正

水道法の改正により、指定給水装置工事事業者の指定の更新制度が導入されることに伴い、更新手数料を定めるもの。

- 白鷹町ペアリフトの設置及び管理に関する条例の一部改正

白鷹町営スキー場の利用拡大とサービス向上を目指し、ペアリフト料金を改定するもの。

2 頁に関連記事

ほか 2 本の条例の一部改正を可決。

人事

次の人事案件に同意しました。

- 白鷹町教育委員会委員の任命

任期満了（9月30日）に伴い、引き続き船山嘉実氏（鮎貝）を任命すること。

- 白鷹町固定資産評価審査委員会委員の選任

任期満了（10月26日）に伴い、引き続き千田良子氏（荒砥）を選任すること。

- 人権擁護委員候補者の推薦

任期満了（12月31日）に伴い、引き続き大村亨夫氏（鮎貝）を推薦すること。

選挙

任期満了（9月30日）に伴う選挙により、次の方々が当選しました。

- 白鷹町選挙管理委員会委員

小川 浩美氏（荒砥）
樋口 康男氏（高岡）
梅津ツヤ子氏（横田尻）
高橋 康子氏（荒砥）

- 白鷹町選挙管理委員会補充員

小出 健一氏（山口）
布施 房子氏（畔藤）
福田 芳郎氏（鮎貝）
高木志津子氏（山口）



契約

- 白鷹町役場庁舎等解体工事請負契約の一部変更
契約金額の変更

【変更前】 3 億5640万円

【変更後】 3 億5871万6600円

- 白鷹町まちづくり複合施設等整備工事請負契約の一部変更

契約金額の変更

【変更前】 26億9334万5040円

【変更後】 27億 542万5240円

それぞれ設計の一部を変更する必要が生じたもの。予算の範囲内の変更のため、補正は不要である。



進む外構工事

農業の担い手育成へのサポート体制は

町長 関係機関が連携し段階的に支援



金田 悟議員

農業の担い手育成確保対策の充実を

問 行政・各農業団体・地域の強力なサポート体制は。

町長 農業関係機関が連携してサポートチームを編成し、新規就農段階から地域の担い手に至るまで、段階的支援を行っている。

問 どのような経営体を目指していくべきか。

農林課長 農業者の高齢化、農地の集約化が進むことが予想され、個人経営では限界がある。農業

機械の共同利用や組織化、経営面でも集約をはかるとすれば、法人化となってくる。

農業の基本は土づくり

問 堆肥利用実態調査の結果と対策は。

町長 耕種（田畑を耕し作物を栽培する）農家、畜産農家ともに、堆肥散布の労働力確保問題が明確になった。農作業受託組織での新たな担い手確保や、より効率的な作業を可能とする体系づくりが必要と考えている。

問 現在行われている堆肥散布の取り組み状況は。

農林課長 稲発酵粗飼料を酪農家（乳牛）の飼料に、そこで排出される堆肥は、効率的に耕種農家の圃場に還元している。

問 優良事例は。

農林課長 平成30年度、記録的な高温・少雨の中、ホップについては、水を多く必要とする作物であり、渇水のため収穫皆無となった圃場があったなか、毎年、大量の堆肥を投入した結果、保水力に優れた土になり、前年度を上回る収穫量を得た農家がおられた。

貴重な農地を次世代へ引き継ぐために

問 耕作放棄地の現状と解消実績は。

町長 平成30年度は60・2 haで、近年3年間は、横ばいからやや増加の傾向にある。9年間で、約18 haの耕作放棄地が再生利用されている。

問 耕作放棄地解消計画と町単独の助成事業の継続は。

農林課長 農業委員会では、毎年3 haの目標で取り組んでいるが、進んでいない状況。今後も継続する。

問 未然防止対策は。

農林課長 中山間地域等直接支払制度等の日本型直接支払制度を活用することが最も有効と考える。現在、制度を活用している農地のほとんどが水田であり、今後は、有効に活用している畑地も対象農地に追加し、未然防止につなげていきたい。

自分の国の食料は自分の国で

問 食料自給率の低下に対する認識は。

町長 食料生産県の一員として、地域農業の現状を分析し、将来に向かって高い目標を設定しながら、地域農業の発展に向けて取り組みを強化している。



稲発酵粗飼料

将来に希望の持てる地域農業振興対策を

鮎貝の商業施設の進捗状況は

町長 出店協力打診者と協議を重ねている

鮎貝地区地域交流 商業施設

運営者選定

問 運営者の現在
は。

町長

町内商業者を
中心に協議を
行ったが出店に至らず、
出店協力で打診があつ
た株式会社ファミリー
マートと協議を重ね出
店への手続きを進めて
いる。

商業施設の機能は

問

機能や商品は。

町長 コンビニ商品
のほか肉・魚・
野菜・青果をそろえた
ミニスーパーを想定し
ている。公共料金支払
い、ATM、多機能コ
ピー機など利便性が高
まると思う。店舗内に
飲食スペースを検討し
ている。移動販売はで
きるだけ早く開始させ
たい。

隣接する広場は現状
を大きく変えない整備
方針である。商業施設
ができることで周囲に
様々な変化があると想
定されるため、その
時々の変化に対応する
ことも必要である。



横山和浩議員

文化財の活用

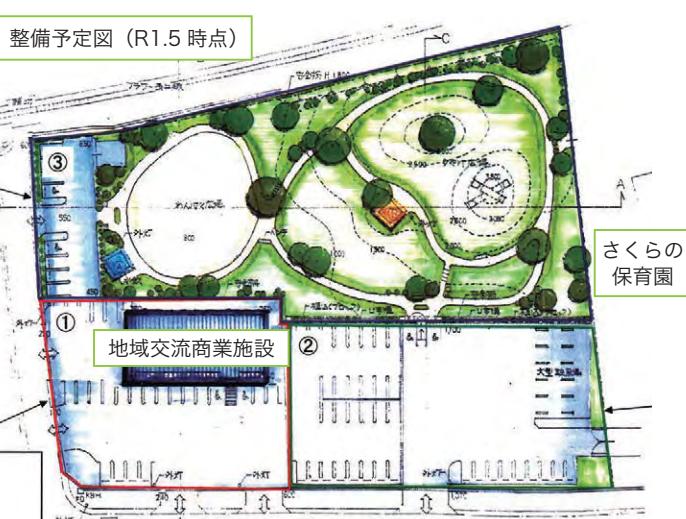
価値ある文化財の町
指定は

問

指定にあたり
教育委員会から
審議会へ諮問していな
い文化財はあるか。そ
の理由は。

教育長

塩田城址、
深山観音堂、
塩田行屋の御
の本尊、



商業施設運営者に地域の声を

民具の活用は

問

保管民具の展
示予定等は。

町長 旧十王コミセ
ン周辺を整備し、
民具の展示保管施設と
して活用したいと考え
ている。展示方法に工
夫検討が必要であるた
め今年度中に施設整備
構想を策定したい。

文化財調査の専門職は

問 文化財調査の
人材育成や計画
的な調査体制が必要で
はないか。

町長 白鷹町には貴
重な文化財が数
多く存在していて、ま
だまだ調査が必要な状
況。調査・保護・活用
をはかるために、文化
財に精通した専門職員
として文化財コーディネーター1名を配置し
ている。今後も文化財
と地域をつなぎ、地域
の活性化に取り組みた
いと考えている。

置賜病院へデマンドの乗り入れを

町長 ニーズを把握し町外へのアクセス向上を検討する



菅原俊一議員

運転免許証自主返納

問 近年の免許証
自主返納数の推
移は。

町長

平成29年に65人。30年は62人。今年、8月19日現在52人が返納している。

問 促進チラシ作
成など返納者に
対する支援策の周知徹
底を。

町民課長 交通安全
教室等でお
知らせをしているが、
広報等でも徹底する。

町営バスがあつたが

問 かつて長年運
行した町営バス
が役目を終えた理由は、

町長

利用者の減少と毎年続く財政負担、「バス停まで遠い」「目的地が限定的」「空気を運んでいいる」などの声が寄せられ廃止した。

住民混乗型スクールバス増設は

問

混乗型スクー
ルバスの時間の
増設や西側での運行は、

町長

本来の目的を考えると増便は困難。町民から要望も

ないので検討しない。
デマンドタクシーの有効活用を

問 デマンドは
「予約が煩雑」「時間通り来ない」「使い勝手が悪い」などの意見がある。システムを正しく知ってもらう方策は。

町長 町民全体の理解が必要であり、今後とも様々な機会にさらなる周知をはかっていく。

企画政策課長 よりわかりやすい丁寧なPR方法を研究する。町報での特集なども検討する。

置賜病院への直通便

問 デマンドの置
賜病院への乗り
入れは。

町長

区域外への乗り入れは置賜定住自立圏共生ビジョンで「デマンドタクシー等の広域利用の検討を行っていく」としている。



便利でお得なデマンドタクシー

る。本町でも利用者の声を聴き、ニーズを把握し、関係市町と連携しながら町外へのアクセス向上を検討する。

問

飯豊町では乗り入れを実施している。前向きな検討を。

町長

先般、県と町村会との意見交

換会の際、全体的な県民目線で公共交通網の在り方を検討してはと申し上げた。



交通弱者対策の更なる向上を

若者回帰への取り組みは

町長 紅花で郷土愛の醸成



丸川雅春議員

郷土愛の醸成は

問

若者回帰には、幼少の頃から、地元を愛する想いがなければならぬと思うが、具体的な取り組みは。

町長

平成30年度から、全ての小中学校で紅花を題材とした学習をしている。中学校では町産材を使用した授業等で、資源、産業、文化を知り、体験し、考える機会を創出している。

問

紅花栽培体験も含めた、総合的な学習における郷土

愛醸成についての効果を、どう捉えているか。

教育次長

全国の小学6年生と中学3年生を対象とした調査で、「地域の行事に参加している」という割合が、本町の小学生は93・9%、中学生は73・7%。

また「地域を良くするために何をすべきか考えたことがある」という割合が小学生67・1%、中学生が44・5%と、いずれも全国平均を上回っており、一定の効果があつたものと思われる。

就労への取り組みは

問

就労対策において、置賜定住自立圏構想の中でどのような取り組みがあるか。

町長

置賜定住自立圏の共生ビジョンに基づき、西置賜雇用対策協議会を中心に、企業、学校、商工会等関係機関とも連携し、若者のU・I・Jターンの促進、産業人材の確保、定着への取り組みをしている。

問

置賜30分構想実現に向けての現在の道路整備の進捗状況は。

建設水道課長

白鷹・米沢間は、米沢北インターから川西町間まで順調に進んでいる。長井・白鷹間の西廻り幹線道路は、県の中期道路整備計画に、前期5年の間に調査着手と掲載された。

問

置賜30分圏構想の道路整備が完了した際の雇用の創出についての考えは。

町長

働く場を確保するための位置づけとしての中で、我々の用いる地盤の足場をどう創っていくかということとは、大いに議論しながら方向づけしたい。

定住支援について

問

若者の起業への支援事業の内容、実態は。

商工観光課長

支援内容は、創業に係る設備投資に対し3分の1以内、上限50万円を補助するもの。昨年度は2件の相談があり、1件が創業した。

問

県と連携している若者定着奨学金返還支援事業はいづから開始され、その成果は。

商工観光課長

平成27年度に創設された。本町では、これまで8人が該当したが、卒業後に県内に就職した人はなく、辞退している。



白鷹の未来を担う紅花学習



回帰率上昇で人口減少に歯止めを

総務厚生常任委員会

快適で安心安全な施設整備を

9月5日に委員会が開催され、白鷹町まちづくり複合施設整備事業の取り組み状況について説明を受けた。

質疑

駐車場の排水計画は

委員 駐車場について、大雨が心配。排水計画はどうなっているのか。

当局 中央車道ができるが、その脇に大きな側溝を入れており、メインの雨水対策となる。他の部分は今まで使用していた側溝等への雨水対策を考えている。

委員 駐車場の傾斜は。

当局 1〜2%の勾配をつけて、一番近い側溝に流れるように考えている。

境界柵は

委員 境界目隠し柵は、目隠しのみか、防音等も備えた柵か。

当局 目隠しのみ。近隣住宅の方に伺ったところ、音よりも目隠しの要望があった。

鷹のモニュメントは

委員 モニュメントの設置は難しいとのことだが、どうなるのか。

当局 設置しない方向であり、取り扱いに関しては今後検討している。

地域おこし協力隊のさらなる活躍を

地域おこし協力隊の昨今の活動状況について説明を受けた。

今春、元メンバーが中山にオープンさせた「族（まぶし）」にて、現協力隊の皆さんと意見交換を行いました。

委員 町の良い点、改善点は。

メンバー

- ・地域とのつながりが楽しく、人が優しい。
- ・地域の方に声をかけてもらい、暖かいと感じた。
- ・荒砥駅前が寂しい。
- ・商店が少なく、共働きの核家族は不便かも。

委員 協力隊になった理由は。

メンバー

- ・東京にいた時から山形をPRしていた。移住定住セミナーにも参加した。



族のおいしいランチ

- ・田舎に住み、新しいことにチャレンジしたい。
- ・農業がしたかった。
- ・登山やスキーが好きだった。熱心に声をかけてもらった。

委員 先輩の二人からアドバイスを。

元メンバー

- ・無理せず活動して欲しい。
- ・一番得たものは、地域の人達との出会い。族にも来ていた。

委員 協力隊からの要望は。

メンバー

- ・受け入れ先は町の看板的作用。誰でも順調にやっていたらいいと思う。

委員 定住する際の課題は。

メンバー

- ・草刈り機は必要。
- ・繁華街を求めて来たわけではない。自然体でバックアップ、フォロー、人としての対応が一番大切。
- ・移住者のネットワークがあつたほうがいい。



- その他の説明
- 会計年度任用職員制度
 - 第6次白鷹町総合計画前期基本計画
 - 幼児教育・保育の無償化 など

住宅は生活していく基本

9月6日に委員会が開催され、白鷹町住宅整備基本構想の策定について説明を受けた。

【背景と目的】

第6次白鷹町総合計画や、新たな都市計画マスタープランに則し、「白鷹町住宅生活基本計画」と「白鷹町公営住宅等長寿命化計画」を着実に推進するための指針として策定する。あわせて、白鷹町の住宅施策・公営住宅施策に係る現状と課題、公営住宅の管理のあり方と整備の基本的な方向性に関する検討を行う。

【これまでの経過】

平成26年度 白鷹町住宅生活基本計画策定
平成27年度 白鷹町町営住宅等長寿命化計画策定

【今後の取組】

- ①庁内ワーキング会議で検討、年度末まで策定。
- ②進捗状況を議会に報告。

質疑

【委員】将来的に、高齢者の一人暮らしの住まい対策が課題になる。それらを踏まえた計画となるのか。

【当局】重要な部分として認識している。構想の中で方向性を示していきたい。

【委員】神明アパートの建て替えという話もあるが、町全体の公営住宅の新しい配置計画が必要なのは。

【当局】どのような方法で改修できるか検討し



将来を見据えた計画を

ていく必要がある。新たに建設する場合は、荒砥・鮎貝は一体的な整備をしていきたいと考えているので、町全体を見回して取組みたい。

【委員】他市町から人呼び寄せる施策もあつていいのではないか。

【当局】外から定住してもらう住宅を政策的に整備することも、一つの課題になると考えている。

万全な準備で冬を乗り越えよう

令和元年度の除雪計画について説明を受けた。

各地区区長並びに除雪業者オペレーターから寄せられた意見・要望を踏まえ、町民生活の安全・安心につながる除雪計画を構築する。

【除雪計画】

- ①雪押し場の確保
町と各区、除雪業者との連携を強化するとともに、町報等による広報活動を強化する。
- ②歩道除雪への対応
関係区への委託体制を継続し、オペレーターの確保が難しい事案については、個別に検討していく。
- ③雪捨て場の確保
- ④その他の関連事項

- ①間口除雪のあり方検討
- ②消雪道路の確保
- ③下水道マンホール等

の支障物の点検と補修の推進

- ④将来に向けた除雪路線の見直し

質疑

【委員】高齢者宅の除雪はどうするのか。

【当局】各区に高齢者世帯や除雪困難者等のアンケートを依頼しており、町道除雪で配慮する対応をしている。

【委員】学校の通学路で、歩道の線も見えなくなる。小さい子は、雪の壁で見えなくなり、非常に危険である。しっかりとした対応をお願いしたい。

【当局】交差点まわりや、家屋が集中している場所などは、ロータリー除雪とダンプで排



気をつけていってらっしゃい

安全・安心に暮らせる除雪体制を

- その他の説明
- 白鷹町6次産業化推進戦略の策定状況
 - 白鷹町都市計画マスタープランの策定
 - 白鷹町上水道事業認可の変更
 - 町道路線の認定及び廃止

知れば得する “ぎかい”のキホン

第2回

質疑とは 質問とは

みなさん、地方議会において議員が当局に見解を求めるために行う「質疑」と「質問」の違いがわかりますか。一見すると類似している言葉ですが、意味合いに大きな違いがあるので。

質疑とは

「質疑」とは、議会の議案審議や委員会の中で発言するのですが、「疑義を質す」つまり「不明点を質問して確かめる」もので、原則として「自己の意見を入れてはならない」とされています。この「自己の意見」とは、討論で述べるような賛成・反対の意見をいいます。ただし、自己の見解を

述べないと質疑の意味をなさないものや、根拠や過去の事業経過、データ等をもとに当局を追及する事までは禁止されているものではありません。

質問とは

「質問」は、大きく分けて一般質問と緊急質問があります。行政全般について疑問点等を問ひ、自己の意見を述べ、それについての所見を当局に質すことができます。当局の姿勢、責任を明らかにすることで、政策の変更や実現につなげることが出来ます。一般質問は定例会で行われ、臨時会では許されていません。行財政全般にわたる議員主導の政策

論議であり、質問する議員も、受ける当局も十分な準備が必要です。そのため、質問の内容を事前に提出する通告性が採用されています。

本町においては、質問と答弁あわせて60分以内とし、初回に全般にわたる質問を行い、2回目の質問に対し当局が答えるという一問一答方式が採られています。



中身を知れば、議会の見方も変わります。ちょっと気にかけてみてください。

広報誌の役割は

町村議会広報研修会

9月24日～25日

広報誌は議会活動で伝える一つの手段であり、「役割を認識する」ことが大切である。結果やプロセスよりも「何が課題なのか」を伝えることを大切にしよう指導を受けた。

読者を意識した誌面づくりが大切で、読み手がスラスラと読める言葉や内容になるよう、文章づくりや構成のポイントを学んだ。



表紙

盆踊りは53回目

町下地区夏祭り

8月15日に開催された町下地区の夏祭り。やぐらの太鼓で踊る盆踊りには着物姿の子どもや若者も多く、たくさんの売店が会場を盛り上げました。よさこい白鷹櫻鷹會さんほか多くのの方の踊り披露もあり、見て楽しい・踊って楽しい・食べておいしい夏祭りでした。そのほか町内各地の夏祭りも魅力いっぱいでした。これからも期待したいですね。



追跡 レポート

あの質問のゆくえ 新規就農者 支援編

新規就農者支援は

新たに農業を行う担い手に対する支援、育成について、どのように取り組んでいくのか。(H27.9議会)

答
弁

白鷹町の多様な作物で幅広い研修ができるよう、新規就農者受入協議会を発足させ、受け入れ体制を整備していきたい。

どうなった



大きな夢を収穫しよう！



白鷹町で農業してみませんか！

新規就農相談 延べ312人

平成27年10月に、白鷹町新規就農者受入協議会が発足した。協議会は、町内の担い手農家14人が主体となり、町、西置賜農業技術普及課、JA山形おきたま等の関係機関がオブザーバーとなり構成された。

協議会の主な取組みは、首都圏で開催される新規就農フェアに参加し、就農希望者の相談に応じながら町の魅力を発信することである。これまで、フェアには合計18回参加し、延べ312人の就農相談を受けた。主な相談内容は、町内での短期・長期研修に関することである。

相談後、実際に受け入れ農家で研修を受ける事となった場合、協議会は就農者となるための総合的なサポートを行う。協議会発足後、短期研修を受けた方は30人、長期研修に移行した方は3人、長期研修実施後、新規に就農した方は1人である。

なお、現在、協議会の担い手農家は16人となり、長期研修の受け入れ農家は、協議会発足当初の2人から4人に増加した。

今後、さらなる体制強化を図り、新規就農者の獲得に取り組んでいく。

直接「移住」につながる大切な取り組み。各課連携し、総合的な視点でさらなるパワーアップを

遊びのように
楽しんでいます



安部 マチ子 さん（十王地区）

ボランティア

白鷹の未来を彩る

… 手芸の楽しさを子供たちに …

荒砥小のクラブ活動で手芸を教える先生にお話を伺いました。

どんな活動ですか
小学生たちに手芸を教えています。荒砥小に手芸部ができてから関わるようになり、現在は6月から11月まで、年10回です。作ったものは、おばあちゃんに見せるように声掛けしています。

最近の子供たちの好きな色目も以前とは違ってきていて、その変化がおもしろいですね。昔は女の子は赤

だったんですが、今は赤やピンクが好まれなくなりましたね。

ボランティアのきっかけは

声をかけていただき活動しています。お嫁にきてからずっと。家族の協力もあったからできました。家族は大事です。この活動も婦人部での関わりがきっかけです。学芸会と一緒にしたり、昔語りをしたり。今は形を変えて手芸になりました。

ボランティアには他にもいろいろ連れて行ってもらいました。図書のボランティアもしていましたし、いろいろな場所に出させてもらったから、とても勉強になりました。自分たちの好きだったのかもしれない（笑）。全然負担とは思わないです。

活動の際、心がけていることは

他人（ひと）のため

は自分のためと思っています。損得を考えず偉ぶらないで、とにかく自分のために。だから、教えるというより、自分も遊びのように楽しんでいます。

続ける理由は

仲間がいるからでしょうね。気持ちが同じような人たちが集まっているので、やめられないんです（笑）。家の中にいるよりも、仲間と活動したり、話をしている方が、やっぱり楽しいですよ。

今、思うことは

以前、クラブに入っている男の子で反抗的な子がいました。家庭の問題があったようです。今も昔もやっぱり家庭が一番大事だとつくづく思います。今その子も立派な大人に



なっていました。自分も結婚して70年になりますが、やはり家庭が第一ですね。

皆さんのおかげで、長年続けることができています。ありがとうございます。

議会へひとこと

以前は婦人会と議員さんたちとの意見交換会もあったんですが、ぜひ、いろいろな人たちの意見を聞いてほしいですね。ボランティア活動にもご理解と、ぜひ協力もお願いしたいですね。

編集後記



平成30年度決算は、自主財源比率が低い状況でしたが、今後における更なる質の高い行政サービスをお願いながら認定されました。

今年度においては、町民のみなさんも、まちづくり複合施設の完全整備を見守っていきましょう。

最近、当町においてもイノシシによる農作物への被害報告が増えていきます。まさかイノシシが？数年前までは考えられない事でした。有害鳥獣として捕獲の取り組みが始まっています。被害が拡大しない事を願うばかりです。

一日の気温の寒暖差が大きくなる季節です。どうぞご自愛ください。

（丸川）

広報委員

委員長 笹原 俊一
副委員長・編集長 横山 和浩
委員 丸川 雅春
委員 竹田 雅彦
委員 金田 悟
印刷・長谷川印刷

